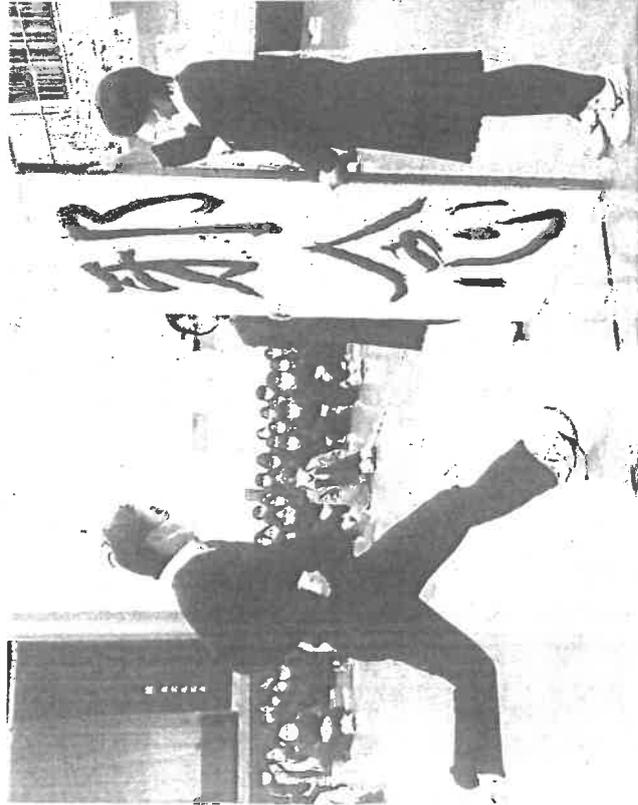




# きょうから共通テスト 県内各高校で出陣式

大学入学共通テストが14、15の両日に行われるのを前に、県内の各高校で13日、出陣式が行われた。新型コロナウイルス禍の中で努力を続けてきた生徒たちに向け、教職

員が「自分を信じて」と激励した。温かい声援を受けた受験生は本番への決意を新たにした。  
(玉虫秀明、半田徹、小形尚輝、土屋隆)



「邪念」を打ち破るよう、勢いよく飛び込む受験生  
＝酒田市・酒田東高

# 激励に いざ本番

**山形** 約230人が挑む。激励に立った相沢中意教諭は、コロナ禍で学んだ生徒に「みんなは新時代のインベーター。共通テストは通過点ではないから、顔を上げて会場に行つて、笑顔で帰ってきてほしい」と鼓舞した。「注目のフィルターを強化せよ」とのメッセージを掲げ、冷静に臨むよう強調した。阿部幸太さん(18)は「いつも通りの力を発揮し、目標の点数を取りたい」と話した。

**動画はここから**  
電子版はデジタルスタ

**酒田東** 171人が挑む。大山慎一校長が「歯を食いしばって頑張ってきた努力を

信じ、自分の力を発揮してほしい」と激励し、知野貴弥さん(17)がだるまに目を書き入れた。「過去の自分」「弱気」「限界」といった打ち勝つべき項目が書かれた大きな紙が用意され、クラス代表の生徒が勢いよく紙を突き破り、必勝を祈った。教職員による激励の動画やダンスも披露された。

**新庄北** 教職員や後輩が141人にエールを送った。受験生代表6人が「今までやってきたことを信じよう」「最後まで一纏めに頑張ろう」と決意を述べた。後輩の応援団が激励し、教員は「落ち着いて問題を解けば大丈夫」とアドバイスした。3年

生の担任団がお笑いコンビ「カールポコ。」の物まねとともに忘れ物などへの注意を呼びかけ、生徒たちは気合を入れ直した。

**米沢興譲館** 193人が共通テストに出願している。曹根伸之校長が「恐おる者、事ついに成る」と言う。みんなが3年間培ってきた力が、夢をかなえることを可能にする」と激励した。各クラスの代表5人がそれぞれ「自分たちの力がどれだけ通用するか、楽しんで臨みたい」と意気込みを語った。応援団のエールで激励し、最後は全員で気勢を上げて拳を掲げ、互いの健闘を誓った。



気勢を上げて必勝を誓った出陣式  
＝米沢市・米沢興譲館高

# 身近な課題 解決策は

米沢の2高校 研究活動発表

地域振興などテーマ

米沢興譲館

米沢市の米沢興譲館高（菅根伸之校長）の探究活動発表会が9日、同校で開催され、1、2年生約400人が地域振興や持続可能な社会のあり方をテーマに研究した成果を披露した。

同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されており、理系、文系問わず、全生徒がテーマを設定し、

研究に取り組んでいる。

テーマは、昨年8月の豪雨を受けた地域住民の水害への意識調査、雪を使った効率の良い発電法、コンビニヤクがプラスチックに代わる新素材になり得るかーなど多岐にわたる。雪庇がで

きにくい屋根の構造を研究したグループは、四つの異

なる形の屋根のモデルに雪庇を発生させて観察した結果を紹介し、「自分たちで

経営や観光の視点で

米沢商

米沢市の米沢商業高（伊藤幸校長）の課題研究発表

屋根のデザインまでした」と展望した。

2年生の発表を対象に審査が行われ、12グループが5月の発表会に進んだ。

（大坪千絵）

表会が13日、同市民文化会館で開かれた。経営や観光などの観点から、地域経済を盛り上げる取り組みを調査、分析し、事業者との連携など新たな活動について

提案した。

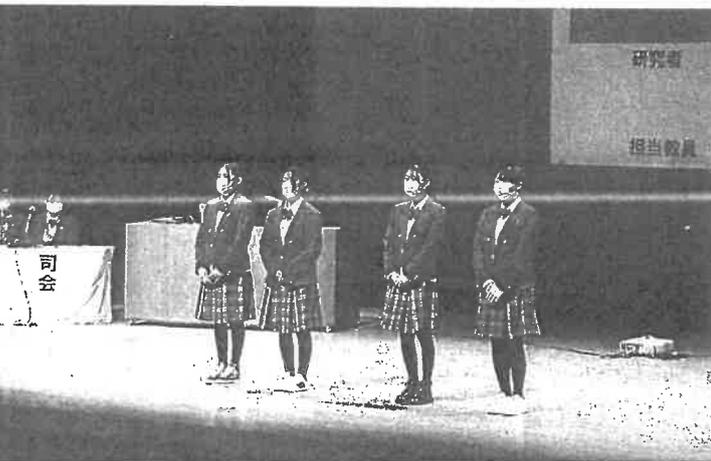
課題研究班4組と、商業研究部の計5組が発表した。生徒たちは、ふるさと納税制度は魅力的な返礼品を考えるきっかけになり、地域観光の意識改善につながるといった考察や、生徒が実際に商品の仕入れから販売を行うテント市「米商物産館」の企画運営などの取り組みを紹介した。地域企業と連携し、広がりを持った活動を展開していきたいとまとめた。発表後は活発な質疑応答も行われていた。

例年は校内で開催していたが、保護者や市内の企業関係者を招き、初めて市民文化会館で実施した。

（半田徹）



探究活動の成果を発表する生徒ら  
米沢市・米沢興譲館高



地域の観光資源について研究成果を発表した生徒たち  
米沢市民文化会館

## コロラドの高校生と交流

### 米沢興譲館高生 オンラインで



米沢市の米沢興譲館高 科2年生と米国コロラド  
(曾根伸之校長) 国際探究 州のスモーキー・ヒル高で

オンラインでコロラド州の  
高校生と交流する生徒たち  
— 米沢市・米沢興譲館高

日本語を学ぶ1、2年生各  
24人が14日、オンライン  
で交流した。昨年11月から  
の交流の締めくくりで、  
平和をテーマに意見を交  
わした。

両校の生徒はこれまで3  
回にわたりオンラインで  
会話し、両国の歌を一緒に  
歌ったり発音を指導し合  
ったりするなど関係を深め  
てきた。最終回の今回は、  
興譲館の生徒が広島の平  
和記念公園、原爆資料館を  
訪れて学んだ内容などを  
基にプレゼンテーション  
し、「共にこれからの平和  
について考えよう」と呼び  
かけた。

田中暖乃さん(17)、岸あ  
んなさん(17)は「過去の戦  
争を知った上で、これか  
らどう平和を一緒につく  
っていくかに重点を置いて  
話した。コロラドの生徒  
に『広島に行きたい』と  
言ってもらえて良かった」と  
と話した。姉妹県州の若者  
の交流を進める県の事業の  
一環。

(大坪千絵)



# 山形県立米沢興譲館高等学校

校長 曾根伸之  
所在地 米沢市大字笹野1101番地  
創立 明治19年9月19日  
生徒数 599人

在校生  
message

## 最高の高校生活を 興譲館で

自治会長  
舟腰倫太郎

300年の歴史を持つ米沢興譲館高校。「興譲」の精神のもと個性ある生徒たちが仲間と共に、勉強、部活、研究と日々の学校生活に励んでいます。この高校で生活しているとよくこんなことを言われます。「勉強ばかりで楽しくないんじゃないの?」「行事がなくてつまらないんじゃないの?」と。そんなことはありません! 勉強はもちろんのこと、部活動にも全力で取り組み、興譲祭をはじめとした行事も全力で楽しんでいます! 皆さんも一緒に最高の高校生活を送ってみませんか? 私たちはあなたの入学を心待ちにしています。

本校は、1697(元禄10)年、米沢藩の学館を前身とする300年以上の歴史を誇る伝統校です。「興譲」の精神、すなわち「自他の生命を尊重する精神」「己を磨き、誠を尽くす精神」「世のために尽くす精神」を教育精神とし、多くの優れた人材を育て、2万余人を数える卒業生を送り出してきました。

普通科、理数探究科、国際探究科を設置し、思考力・判断力を磨き、知識を活用する力を身に付けるため、自ら課題を発見し解決に取り組む学習を重視しています。さらに、文部科学省の「スーパーサイエンスリサーチ」等の学校設定科目をはじめ、高大連携や



海外研修、地域の人材や企業との協働などの多彩な取り組みを実践しています。学校行事には、体育祭、興譲祭、1年生の東京探究研修、2年生普通科のキャリア研修、2年生探究科の関西サイエンス研修、国際探究研修、海外研修などがあります。部活動も盛んで、令和4年度は、フェンシング部、スキー部、美術部、新聞・文芸部、コア・スーパーサイエンス部が全国大会で活躍しました。

興譲館高校で輝く自分を発見し、学習や部活動で素晴らしい仲間たちと切磋琢磨しながら、自分の大きな夢を実現させてください。



探究活動発表会 (ポスターセッションより)

## リアル交流深まる仲 タイの高校生ら

タイの国立中高一貫校の高校生らが21日、米沢市を訪れ、米沢興譲館高の生徒と芋煮や雪遊びなどを通じて交流した。

訪れたのはマッタヨムワット・ナイローン校の生徒14人。昨年、県内と国外の学校をマッチングする県の事業をきっかけにつながり、オンラインで交流を重ねた。14人は14日から約2週間、全国を巡る中で、米沢市を訪れた。

米沢興譲館高側は生徒8人が出迎

### 米沢興譲館高生と雪遊び

えた。互いに慣れない英会話に苦心しながらも、趣味や文化などを質問し合い、次第に笑顔に。同高2年の新野暖仁さん(17)は「オンラインより積極的に話せた」、ナイローン校のパッタナ・ヤオワンナツイリオーガストさん(17)は「ゲームやアニメの話が楽しい。みんなすごく優しい」と話していた。

昼食では米沢興譲館高の生徒が芋煮を振る舞った。

(高野周平)



雪遊びを楽しむ生徒たち＝米沢市・米沢興譲館高

2023.3.25 (土) 山形新聞 14面

全国選抜高校大会

全国高校選抜大会は24日、各地で7競技を行い、県勢はボクシングのピン級決勝で、男子の安食諒哉(日大山形)と女子の福田有里(同)がと

もに判定で敗れて準優勝だった。フェンシングでは女子エペの米沢興讓館が4強入りを決めた。ライフル射撃女子ピムピストルの高橋杏奈(南陽)は147・5点で6位に入賞した。

◇ボクシング最終日

(阿久根市総合体育館)

▽男子ピン級決勝

中山 聖也

(福岡・東 判定 安食 諒哉)

福岡)

▽女子ピン級決勝

岡部 月香

(群馬・前 判定 福田 有里)

橋青英)

▽フェンシング第1日

(島原復興アリーナ)

▽男子エペ1回戦

米沢興讓館 45-32

(和歌山)

▽男子エペ2回戦

埼玉 栄 45-34

埼玉)

▽女子エペ2回戦

米沢興讓館 45-40

埼玉 栄

(埼玉)

▽女子エペ準々決勝

米沢興讓館 45-33

諒 早

(長崎)

全国高校選抜大会

(25日)

米沢興讓館3位

フェンシング女子エペ

全国高校選抜大会は25日、各地で11競技を行い、県勢はフェンシング女子エペの米沢興讓館が準決勝で別府翔青(大分)に競り負けて3位だった。

◇フェンシング第2日

(島原復興アリーナ)

▽男子フルール決勝

鹿児島南 45-33

鹿児島)

▽同エペ決勝

高松北 45-43

香川)

(高松北は5年ぶり2度目の優勝)

▽女子フルール1回戦

東亜学園 45-16

東京)

▽同決勝

龍谷大平安 45-29

京都)

(龍谷大平安は2年連続2度目の優勝)

▽女子エペ準決勝

別府翔青 45-42

大分)

▽同決勝

龍谷大平安 45-26

京都)

(龍谷大平安は2年連続2度目の優勝)

2023.3.26 (日) 山形新聞 19面

# ジェンダー探究 NY発表



Hosted I

by Northeast Council of Tea

## 米沢興讓館高・石井さん 同世代と交流

探究学習の成果を発表する石井さん  
＝米国ニューヨーク (NECT J 提供)

米沢市の米沢興讓館高(曾根伸之校長)国際探究科3年の石井倅之介さん(17)が、3月に米ニューヨークで行われた現地の同世代との交流プログラムで探究学習の成果を披露した。ジェンダー平等をテーマにした内容で、日米の意識差に直接触れることができ、刺激になったという。

米北東部の日本語教師らでつくる組織・NECT J が企画した派遣プログラム。3月23日～29日に行われ、現地で日本語を学ぶ中高生らと、日本国内から選考を経て派遣された高校生10人が交流した。

メインイベントは、国連職員の子どもらが通う国際学校で開かれた「春祭り」。この場で日本から参加した10人が、探究学習の成果を発表した。石井さんは日本や置賜でのジェンダー平等をテーマに研究し、日本の地方では性別

## 日米の意識差触れ 刺激に

による役割分担が根強いことなどを報告した。米国の中高生からは、日本で女性が大任になる事例の少なさに驚きの声が上がったという。

石井さんは「『ジェンダー平等は当然だよ』という反応で、日本の現状は米国の常識とかけ離れていると改めて感じた。参加者が日本文化に関心がある人たちが多かったため、遅れていたことが恥ずかしいとも思っただけと振り返る。

ほかにも、現地の高校や日系人の会合などで発表を重ね、要望に応じて学生服姿を披露したり、芋煮を振る舞ったりした。海外渡航は初だったという石井さんは「海外に行ったことで、自分の置かれている立場を俯瞰することができた。今回の経験をジェンダーの探究学習や国際的な取り組みに生かしていきたい」と話した。

(大坪千絵)



2023 5.31 (水)

頁 / 8面

新

山 井

(第三種郵便物認可)

第49497号

# 気候変動テーマ 国際プレゼンコンテスト 米沢興議館高 特別賞

米沢市の米沢興議館高(菅根伸之校長)の生徒10人が、民間企業が主催する気候変動をテーマにした国際プレゼンテーションコンテストで特別賞を受賞し、29日、同校で表彰式が行われた。暑さの米沢で、雪をバスや乗用車の動力に活用しようというアイデアが評価された。

エレベーター大手のオース・ワールドワイド・コーポレーション(米田)が主催するコンテストで3回

目。15の国・地域の高校生が、同社社員のアドバイスを受けながらアイデアやプレゼンテーション力を競い、同校はアジア・太平洋地域の7校の中で、1、2位に次ぐ特別賞に選ばれた。

出場したのは2、3年生10人。雪と車の排熱の温度差により電力を生み出し、車の動力にすることで、雪の有効利用と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出削減につながるアイデアを、試作機を紹介しながら英語で発表した。昨年12月から、発表の組み立てなどについて同社

雪を車の動力源に利用するアイデアを提案し、特別賞を受賞した生徒ら

米沢市・米沢興議館高

社員の助言を受けながら準備を進め、3月上旬のオンラインでの発表に臨んだ。同社の経営陣が審査に当たり、地元の課題を踏まえたアイデアを高く評価したという。

表彰式では同社日本法人の日本オース・エレベーター(東京)のティポール・フエヒール社長が「社会

に貢献する人材に育ってほしい」とあいさつし、菅根校長に表彰状、生徒に修了証書を手渡した。3年新野暖仁さん(18)は「自分が成長するともに米沢を見直すことができた。これからは身の回りを観察し、考えを深めていきたい」と話した。

(大塚千絵)

## 「雪を車の動力源に」アイデア評価



# 自信の米沢興譲館 栄冠

## 女子団体 全国選抜3位糧に成長



〈フエシング女子団体〉米沢興譲館の五十嵐舞衣が鋭い突きで勝利をつかみ優勝を手繰り寄せる  
 〓米沢市・米沢興譲館高

### フエシング

(米沢興譲館高)

- 【男子】  
 △団体 ①山形東3勝②米沢興譲館2勝1敗③高阜1勝2敗
- 【女子】  
 △団体 ①米沢興譲館2勝②米沢東1勝1敗③山形東2敗

フルトで競うフエシング女子団体は、米沢興譲館が栄冠を手にした。3月の全国高校選抜大会でエペ団体3位となったチームを率いる主将の高橋里奈は、「全国の強豪校と渡り合ったことが自信になり、緊張



しなくなった。インターハイ(全国高校総体)で一つでも上を目指したい」と意気込みを高めた。

3校によるリーグ戦。ともに1勝で米沢東との最終戦を迎えた。3人それぞれが相手全員と対戦する計9戦で、5勝を先取した方が勝利する。地区大会での同カードはら勝4敗の接戦で勝利。選手は気を引き締め直して臨んだ。

3戦を終えて2勝1敗とし、4試合目で五十嵐舞衣は相手のエースと対峙した。「距離かりに攻めてくるはず」。予想通り積極的に押してくる相手の剣先を冷静に真極めポイントを重ね、真頂点への流れを加速させる大きな1勝を挙げた。チームメイトからの大きな拍手と歓声に、ガッツポーズで応えた。

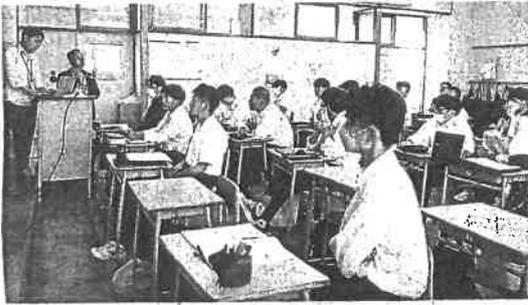
唯一2年生で出場した長嶋夏穂は、この試合では2敗と悔しい結果。それでも「団体だとしても以上の力を出せる時がある」と前向きだ。チームは東北大会でさらなるレベルアップを果したい。全国舞台に向かっていくつもりだ。

(半田 徹)

## データ地域振興にどう活用

米沢興譲館高 地元企業が授業

米沢市の米沢興譲館高(曾根伸之校長)で先月31日、データ活用に関する授業が行われ、同市の観光まちづくり会社プラットヨネザワの担当者が、データの収集方法や地域振興への生



地域振興を目的としたデータの収集や活用について学ぶ生徒ら＝米沢市・米沢興譲館高

かし方について助言した。観光にデータを活用するプラットヨネザワの小田航平さんと小俣伸二さんが講師を務めた。同校は2年生全員が課題研究に取り組み、このうちデータを使って地域振興を考える28人が受講した。小田さんらは、国や自治体などが公開し、自由に利用できる情報の収集や、実際の活用法を紹介した。

生徒らは観光振興、高齢化への対応など個別のテーマを設定し、データを活用しながら探究を進める。長谷部遼さん(16)は「米沢の特産物を使った商品開発に取り組みたい。ニーズ把握のためにデータを活用していきたい」と話した。

(大坪千絵)

# 成績優秀選手や 功労者らを表彰

## 米沢市スポーツ協

米沢市スポーツ協会（土田良雄会長）の表彰式が先月30日、同市のグランドホクコウで行われ、各競技の指導者や選手など計46個人・団体に賞が贈られた。長年選手育成に努めてきた指導者や大会運営に尽力してきた人など、故人を含



一般財団法人米沢市スポーツ協会  
表彰式、祝賀会並びに懇親会  
スポーツ振興の功労者や好成績を残した選手をたたえた  
米沢市・グランドホクコウ

め9人に功労賞が贈られたほか、好成績を取めたとして競技者の一般4人と高校生23人、中学生10個人・団体が栄光賞に輝いた。

式には関係者70人余りが出席。受賞者に土田会長から盾が贈られ、受賞者を代表して米沢市サッカー協会の今野孝義さんが「それぞれの立場で今後もスポーツ振興に努めていく」と謝辞を述べた。引き続き祝賀会が開かれ、受賞をたたえるとともに懇親を深めた。受賞した個人・団体は次の通り。（敬称略）

▽栄光賞 原愛・高橋心（米沢中）米沢一中女子バドミントン部、水野レモン、阿部侑平、久米花音（以上米沢三中）渡部日向、土屋好多郎（以上米沢四中）六角三月、設楽優太郎、清水広大（以上米沢六中）白畑健太郎、高橋太輝、殿岡稟太郎、斎藤葵、青木里胡、金子くら（以上米沢中央高）遠藤悠、遠藤なな、若月萌夏、野村拓夢、

舟山侑翔（以上九里学園高）田中暖乃、色摩瞳美、鈴木悠華（以上米沢興譲館高）萩原夢華、橋本菜生、竹村歩美、石川優希奈、片平風香、小嶋杏、我妻菜愛、青嶋亜弥、久米沢優（以上米沢商業高）石川潤、鈴木貴弘、菊地哲（以上米沢スキー連盟）伊藤汐織（米沢弓道連盟）  
▽功労賞 小原秀樹（置賜地

区高等学校体育連盟）高橋光宏（米沢スキー連盟）本田留美子（米沢市野球連盟）竹田隆（米沢地区柔道連盟）伊藤正人（米沢市陸上競技協会）相田悦志（米沢弓道連盟）今野孝義（米沢市サッカー協会）白幡正司（米沢バドミントン協会）村山清隆（南部地区スポーツ協会）  
（斎藤健太）

(第三種郵便物認可)

# 2領域、14班が探究

## 米沢興讓館高、成果を発表

米沢

米沢市の米沢興讓館高の探究活動成果発表会が5月22日、同校で開かれ、3年生が「科学研究領域」と「プロジェクト型領域」に分かれて取り組んだ研究内容を披露した。

同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)に指定されており、2年時に各自テーマを設定して探究活動に取り組む。研究内容は▽県内における野生メダカの分布▽食物アレルギーを持つ人の

ための食育開発など多岐にわたる。14グループが発表した。

このうち、プロジェクト型領域で小野川温泉(同市)と紅花を組み合わせた地域活性化をテーマにしたグループは、今年1月にイベン

トを開催した。紅花を活用した食事や足湯を用意するなどし、「継続的にイベントを行い、持続的な経済効果と活気を生み出したい」と今後を展望した。

外国人向けのウェブサイトの作成を手掛けた国際探検科の葛西悠太さん(17)は「外国の人と関わることもあってこのテーマにした。米沢の魅力をオンラインで積極的に発信していく必要性を感じた」と話した。  
(斎藤健太)



生徒が探究活動の成果を披露した発表会  
＝米沢市・米沢興讓館高

# 心開き異文化吸収

2023.7.12(水)

山形新聞

12面

## 探究の成果、英語で堂々

興讓館高生 幅広いテーマで発表



探究活動の成果を英語で発表したフォーラム  
＝米沢市・米沢興讓館高

**米沢** 米沢興讓館高  
(曾根伸之校長)  
国際、理数の両探究科の生徒が探究活動を英語で発表するフォーラムが5日、米

沢市の同校と山形大工学部の2会場で開かれ、生徒がシエスチャーを交えながら、環境問題や国際交流など多様なテーマを発表し

た。

1年間の成果を披露する場として開催した。このうち米沢興讓館高には、県内公立高の外国語指導助手や、県と米沢市の国際交流員、同校2年生ら約100人が集まった。3年生23人が10班に分かれ、「置賜地域の水害と環境調査」「紅花を通じた国際交流」の現状と課題などを披露した。

「どうしてこの研究を選んだのか」などの質問と回答も全て英語でやりとりされた。3年嵐田倅永さん(17)は「論理的な研究発表になるように意識した。好きな英語で伝えるのは楽しい」と話していた。

(高野周平)

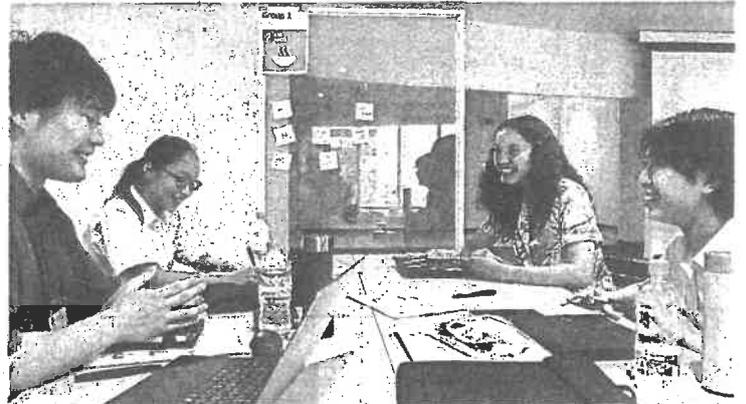
2023.7.23(日) 山形新聞 10面

## 高校生らとSDGsを議論

山形大のサマープログラム研修生

米  
沢

山形大が米国から受け入れて  
いるサマープログラム研修生が、SDGs(持続可能



SDGs目標の達成に向けた取り組みのアイデアを話し合う参加者  
＝米沢市・山形大工学部

な開発目標)を高校生や大学生と考える活動が10日、米沢市の同大工学部で行われ、目標達成に向けたアイデアを話し合った。

研修生11人、山形大生15人、米沢興譲館高1年生22人が参加。11グループに分かれ、SDGs目標からテーマを選択し、地域、国、世界で取り組めることを提案し合った。アイデアは付箋に記入し、ボードに次々と貼り付けて議論し、グループごとに発表した。

「飢餓をゼロに」をテーマに、水の節約などについても話し合ったグループからは、「雪解け水で農作物を生産できないか」「透水性コンクリートで水をきれいにできないか」などの意見が出た。

研修生のレクシアン・マデンさん(21)は「日本と米国の考え方の違いが面白い。高校生のアイデアはとても良かった」と話した。今後、班ごとに連絡を取り合いながら高校生が意見をとりまとめ、28日のオープンスクールで発表する。

(高野周平)



ピックアップ 高校生、堂々の英語

高校生が探究活動などについて英語で発表する「国際英語プレゼンテーション大会」が、東根市の東桜学館で開かれた。オンライン参加を含め国内外19校の生徒が流ちょうな発音を堂々と披露した。

24

2023.7.23(日)

# 学習成果、英語で発表

## 東根・東桜学館 高校生の国際大会

高校生が日ごろの探究活動などについて英語で発表する「国際英語プレゼンテーション大会」が22日、東根市の東桜学館（生島信行校長）で開かれた。オンライン参加を含め国内外19校

の生徒たちが流ちょうな発音を堂々と披露した。県内からは同校のほか酒田東、米沢興譲館、鶴岡南、山形西が参加し、海外からはタイやマレーシア、台湾の3カ国の生徒ら計約90人



学習成果を英語で発表する生徒

＝東根市・東桜学館

24面

が発表した。それぞれ10分間、化学や数学など多様なジャンルの学習成果をプレゼンテーションし、質疑応答も英語でこなしした。

米沢興譲館3年の市川真由美さん(17)、早川和花さん(17)、スワンテミンマウンさん(18)はミャンマー出身。米沢市の伝統野菜「遠山かぶ」について発表した。「分かりやすい表現を心がけた」とし、「もっと英語を話す機会を増やし

て上達したい」などと決意を新たにしていた。英語でコミュニケーションを図りながら研さんを積んでもらおうと、東桜学館が昨年から開催し2回目。

(上村耕平)

### 磨いた英語力 披露

#### 南陽で東南置賜 中高生弁論大会



堂々と英語でスピーチ  
する生徒＝南陽市交流  
プラザ蔵楽

東南置賜地区の中高生を  
対象とした英語弁論大会が

22日、南陽市交流プラザ蔵  
楽で開かれ、27人が練習の

成果を披露した。

中学校暗唱の部に15人、

同スピーチの部に10人、高

校スピーチの部に2人が出

場。スピーチでは生き方や

社会との共存などをテーマ

に、英語で自分の考えを述

べた。英語教諭や外国語指

導助手(ALT)プログラ

ムコーディネーターらが発

音や表現力、内容を審査し  
た。

県英語教育研究会東南置

賜支部(支部長・佐藤正寿南

陽高校長)が主催し、米沢

松川ライオンズクラブが後

援した。入賞者は次の通り。

▽中学暗唱 ①片平夏南斗

(沖郷) ②山川大輔(高島) ③

菊地颯太(米沢六)

▽同スピーチ ①紫桃隆楽

(赤湯) ②小笠原陸(宮内) ③

矢野友佳(同)

▽高校スピーチ ①今龍汰朗

(米沢興譲館) ②安倍翔(同)

(黒沢光高)

# 米沢興譲館高校(米沢市)

## SDGsを意識した課題研究

# ヒントはこんにやくにあり 画期的発見に手応え



新素材の還元方法の開発を追求したチーム。左から太田陽介さん、梅津早哉香さん、遠藤圭隼さん、小野陽平さん(いずれも3年生)。ポーズはセルロースナノファイバーの特徴を表現(?)

文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)の指定を受けて通算15年目となる米沢興譲館高校。2年生から履修するSSH学校設定科目「スーパーサイエンスリサーチ」ではSDGsを意識した課題研究に取り組み、文系・理系合わせて60本以上の研究が行われています。

このうち、昨年度、セルロースナノファイバー(CNF)をテーマに研究に取り組んだチームに話を聞きました。

植物由来のエコな新素材として注目されるCNF。しかし既存の素材と比べて高価なため普及には至っていません。原因は、素材の99%が水分でとても重く、輸送コストがかか

るため。この課題を解決しようとして、一度乾燥させ、還元させる方法を探りました。

そこで注目したのは乾燥こんにやく。水あめなど糖を加えて乾燥させる製造方法をインターネットで見つけ、CNFへの応用を試みました。すると、還元されることを見た目で確認。データで証明することにはこだわり、糖の種類と添加の割合を変えたサンプルを用意し、乾燥↓還元させる実験を100回以上繰り返しました。

この研究のため企業から素材の提供を受け、東京大学の磯貝明教授や山形大学の古川英光教授に教

えを請い、今年3月には都内で開かれた超異分野学会で発表するなど学校を飛び出し、走り回りました。学会では「専門の研究者でも困難とされている復元を簡単な工程で実現できている」と評価され、手応えを感じたそうです。

「なんとなくこんにやくに似てるな、という単純な発想は、高校生だからできたのかも」と振り返るメンバー。今は研究に区切りを付け、それぞれの進路に向かっていきます。「仲間がいたことで画期的な発見ができた貴重な経験を、これからの進路でも生かしたい」と話していました。



研究の集大成といえるポスター



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任 つかう責任

17 ハートナッシュワフで目標を達成しよう

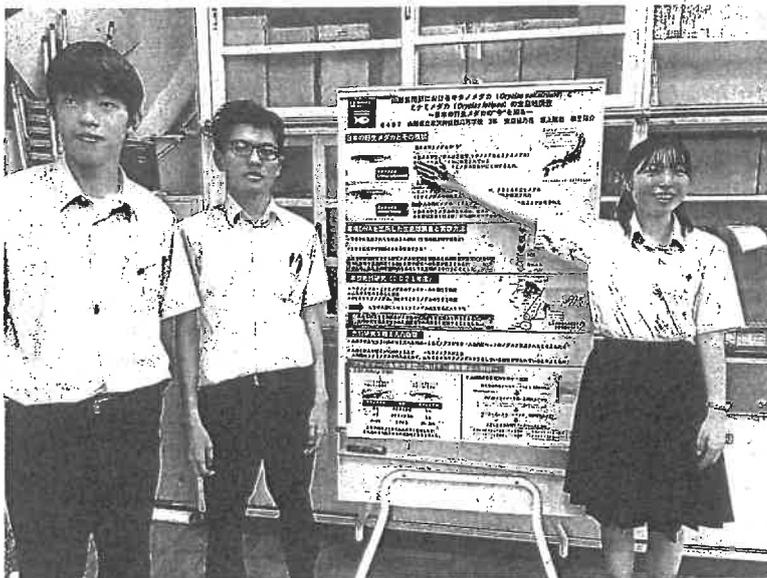
# 環境DNA用いた 生息域調査を評価

米沢市の米沢興譲館高(曾根伸之校長) 理数探究科の3年生3人が、全国のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校の生徒らを対象とした研究発表会で、審査委員長賞を受賞した。生体に影響を与えない環境DNAを用いた研究方法などが評価された。受賞したのは安齋穂乃花さん(17)、坂上陽哉さん(17)、硯里陽介さん(18)。発表会は文部科学省などが主催して8月に行われ、220校が出場した。3人は、主に動物、医学系をテーマに発表した「生物A」分野の33校の中で最優秀に選ばれ、

## 米沢興譲館高生 全国SSH発表会入賞

全体でも4位相当に選出された。3人のテーマは野生メダカの生息域調査。県内ではもともと野生のキタノメダカが生息していたが、ミナミメダカとの交雑により、純系が失われつつある。絶滅危惧種のため、生体を捕獲せず、川の水から2種類のメダカのDNAのみを抽出する手法を用いた。その結果、市街地を中心にミナミメダカの生息域が拡大し、交雑が発生している可能性が高いことが分かったという。ペットとして飼育するメダカの放流も影響を与えることが考えられ、保全を

見据えたウェブサイトを作成した。坂上さんは「DNAの研究を今後も続けたい」、硯里さんは「改善点も分かったので、大学進学後みたい」と話している。(大坪千絵)



環境DNAを用いた調査手法が評価された  
米沢興譲館高の生徒  
|| 米沢市・同校

考えるチカラは知ることから

# 1学級1新聞 読んでみました

多様な意見知れる



▽1年片桐拓人さん(15)  
「毎朝新聞を読む習慣がある。特に一般の人の多様な意見を知ることができるオピニオン面が好きだ。最近

は性による差別と区別の違いについて考えさせられた。新聞を読むことで、いろんな人の人生をお裾分けしてもらっていると感じる。今後選択に悩む時、『あの時、あの人はこう言っていたな』と新聞に載った言葉を思い返し、役立つのではないだろうか」

高校版 米沢興讓館高

視野広げる機会に



▽斎藤大気教諭(30)「新聞記事は事実と意見の区別が明確で、最初に概要を書くなど短時間で理解しやすい構成だ。受け持っている国語と、論理的思考力や表現力を高める科目『ロジカルコミュニケーション』でも活用したい。若い人ほど、

多様な話題に触れられる新聞を読んでほしい。新聞をめぐり、偶然出会った記事によって視野が広がるのが理想。授業でその入り口を作りたい」

自転車ヘルメット  
着用推進校に指定  
米沢興譲館高  
自転車利用時のヘルメッ

ト着用が4月から努力義務化されたことに伴い、米沢署(桃井義典署長)は米沢市の米沢興譲館高(曾根伸之校長)を自転車ヘルメット着用推進モデル校に指定し、同校で2日、指定書交付式を行った。モデル校の指定は村山産業高に続く2例目。

式では、桃井署長が過去5年間の事故統計を紹介。自転車に乗っていて事故で亡くなった19人のうち6割が頭部に致命傷を負っていたこと、自転車に乗って

て死傷した高校生のヘルメット着用率が1・2%だったことを説明し「死傷者を



自転車のヘルメット着用率向上を誓った指定書交付式  
米沢市・米沢興譲館高

減らせるように協力をお願いする」と呼びかけた。

米沢興譲館高2年で、生徒自治会交通安全委員会の竹田安里委員長(17)は「ヘルメットを積極的に活用し、着用率向上につなげた」と話していた。

(斎藤健太)

# 宮崎・高鍋から姉妹都市の米沢へ

米沢市の姉妹都市、宮崎県高鍋町の高鍋高（山尾典子校長）の生徒が18日から3日間の日程で米沢市を訪れ、米沢興譲館高（曾根伸之校長）と親交を深めている。両校の生徒は交流会などを通じ、高鍋藩秋月家出身の米沢藩9代藩主上杉鷹山を縁としたつながりを確かかなものになっている。

高鍋藩7代藩主秋月種茂は、鷹山の兄に当たる。0年に始まり、隔年で生それぞれ地元では、生徒が相互訪問し、新型コロナに名君として愛されてい



## 高鍋高生 ようこそ

### 上杉鷹山が縁 米沢興譲館高生と交流

ラインで交流を続けてきた。

今年が高鍋高の生徒3人と山尾校長らが来市。昨年は米沢興譲館高の生徒が宮崎県でサーフィンやバーベキューを楽しんだこともあり、今回はその「山形版」として白川湖（飯豊町）でのカヌーツアーや芋煮会などを企画した。

高鍋高の一行が18日、米沢興譲館高に到着すると、拍手や応援団によるエールで迎えられ、校内で全校歓迎式を行った。昨年、宮崎県を訪れた米沢興譲館高3年の梅津早哉香さん(18)は「先人のつながりで現代の自分たちが交流できているのは感慨深い」、高鍋高生徒会長の2年尾崎光さん(17)は「ずっと楽しみにしていた訪問。米沢を詳しく知る3日間にした」と話した。

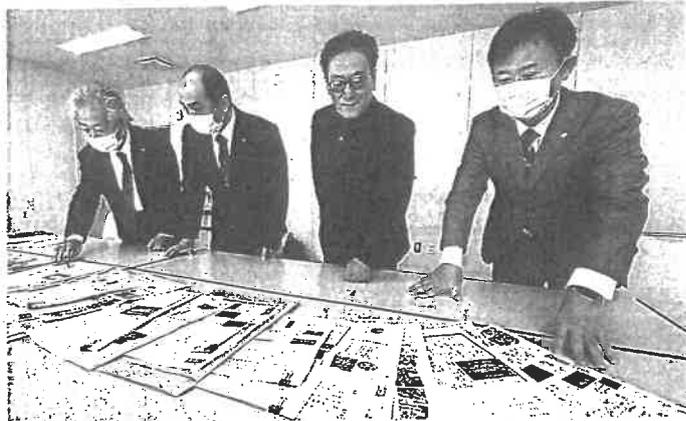
(斎藤健太)

高鍋高の一行(手前中央)を歓迎する米沢興譲館高生  
|| 米沢市・米沢興譲館高

県高校新聞コンクール審査会

寒河江 6年連続最優秀

第45回県高校新聞コンクールの審査会が25日、山形市の大手門パルズで開かれ、最優秀賞に6年連続で寒河江が輝いた。優秀賞に



工夫を凝らした紙面に目を通す審査委員  
＝山形市・大手門パルズ

は東桜学園、山辺、山形西が選ばれた。寒河江は文章の読みやすさや構成力が高い評価を受けた。今年4月に自転

車利用時のヘルメット着用が努力義務化された際には、寒河江高生にアンケートを行って実態を調査。新型コロナウイルス禍以前の学校行事を「在校生は誰も知らない!? 真の姿」と目を引く見出しで紹介するなど、取材の幅広さや新聞作りへの熱量が光った。

渡部委員長は寒河江の紙面について「群を抜いた構成力だった。さまざまな社会問題に向き合い、紙面にまとめており、綿密な計画と熱量を感じさせた」と評価。各校の新聞に関しては「コロナ禍で活動に制限があったことを考慮しつつ、一般的に記事の水準は物足りなさもあつたが、母校愛を感じさせる記事で高校生らしい表情や姿を届けている紙面が多かった」と講評した。表彰式は11月8日に山形市の山形メディアタワーで行われる。

他の入賞校は次の通り。  
▽優良賞Ⅱ山形南、天童、米沢興譲館、山形明正▽奨励賞Ⅱ鶴岡南、鶴岡北  
(小田信博)

# 山形新聞

2023. 11. 4 (土) 7面



興譲館高生、演奏や  
ライブペイント披露  
市内老人ホーム訪問

米沢 米沢市の米沢  
興譲館高(曾根  
伸之校長)の吹奏楽研究ク  
ラブと美術部による出前ラ  
イブが3日、同市の養護老

人ホーム星の村で開かれ、  
出演者が楽器演奏や合唱、  
ライブペイントを繰り広げ  
た。

「川の流れるように」な  
ど9曲の演奏に続き、2曲  
の合唱を届けた。美術部員  
は音色に合わせ筆を動か  
し、花が咲き誇る草原に清  
らかな川が流れる水彩画を  
描いて披露。写真、参加者  
から大きな拍手が寄せられ  
た。

ともに同クラブの2年、  
高橋ひなたさん(17)と安部  
真彩さん(17)は「貴重な経  
験だった。演奏を通して楽  
しんでもらえたようでよか  
った」と笑顔で話していた。

(斎藤健太)

2023.11.28(木) 13面

地域

山

形

新

聞

## 紅花染めの和紙 ぺたぺた

米沢市の米沢興譲館高(曾根伸之校長)の生徒が企画に携わった紅花フェアが26日、同市の道の駅米沢で開かれた。訪れた人たちが染色やドライフラワー作りを通し、紅花の魅力に触れた。

紅花による地域活性化をテーマにし探究活動に取り組む同校2年の6人が企画し、米沢織の織元で紅花染

米沢興譲館高2年生  
魅力伝えるイベント  
米沢

めに取り組む新田(同市)が主催した。来場者は同社の新田克比古さん、翠さん夫妻に教わりながら染色を体験したり、生徒があらかじめ紅花染めした和紙を貼って紅花を描いたりした。

同校の佐藤龍さん(17)は「紅花が口紅や染料などとして昔から使われてきた歴史、魅力を県内外に広めたい」と話した。(大坪千絵)



紅花染めした和紙で紅花を描く  
来場者 米沢市・道の駅米沢



紅花の魅力を伝える「べにばなかるた」を制作した山岡希さん（右から2人目）と米沢興譲館高の生徒  
 米沢市役所

# 紅花の魅力を伝えるかるた

## 協力隊・山岡さんと米沢興譲館高生制作

**米沢** 最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会（会長・中川勝米沢市長）は、同市特産の紅花の魅力を広く知ってもらおうと、紅花にちなんだ句を詠んだ「べにばなかるた」を制作した。市内の小学校や幼稚園、公共施設などに配布する。遊びを通じて、まだ知られていない紅花の魅力に触れることができる。

地域おこし協力隊員で紅花プロジェクト専門員の山岡希さん（30）と米沢興譲館高の生徒が制作した。7月に開かれた「最上川源流よねざわ紅花まつり」のメインイベントで読み札のアイデアを募集。あさつゆに「ぬれたべにばなテーブルへ」「つばさがねべにばなばたけ つうかする」など、子どもが理解しやすいよう言葉に修正を加え、決定した。絵札は、山岡さんの下絵を

## かわいらしく、分かりやすく

元に、同校美術部員らが担当。山上地区の紅花畑を通過する山形新幹線つばさや、紅花を食材に使用したスイーツなど、水彩を用いてかわいらしいタッチで仕上げた。

210個を制作し、19日に市役所で贈呈式が行われた。山岡さんと同校2年の佐藤龍さん（17）、渡部史鷹さん（16）、竹林瑠奈さん（17）が出席。小学校やコミュニティセンターなどの代表者に、中川市長が手渡した。山岡さんは「子どもも大人も新しい紅花の魅力を知ることができると思う。楽しんでほしい」、竹林さんは「子どもにも分かりやすいように絵を描いた。紅花の奥深さにも気付けた」と話していた。

市役所で無料で貸し出す。問い合わせは協議会事務局の地域振興課02338(2)5111。（高野周平）